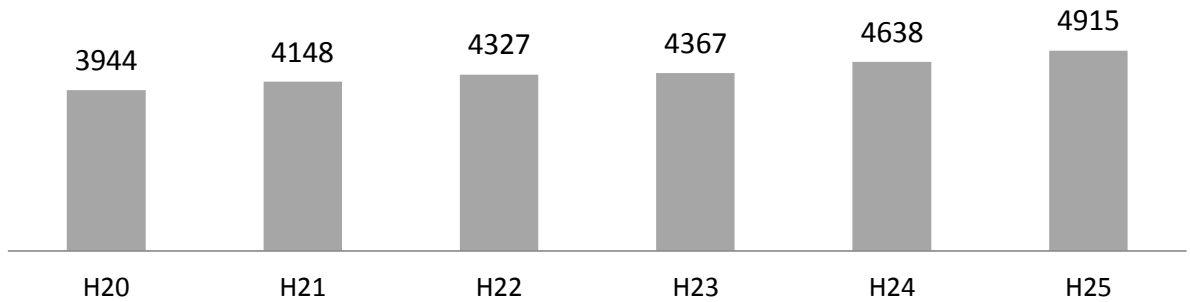


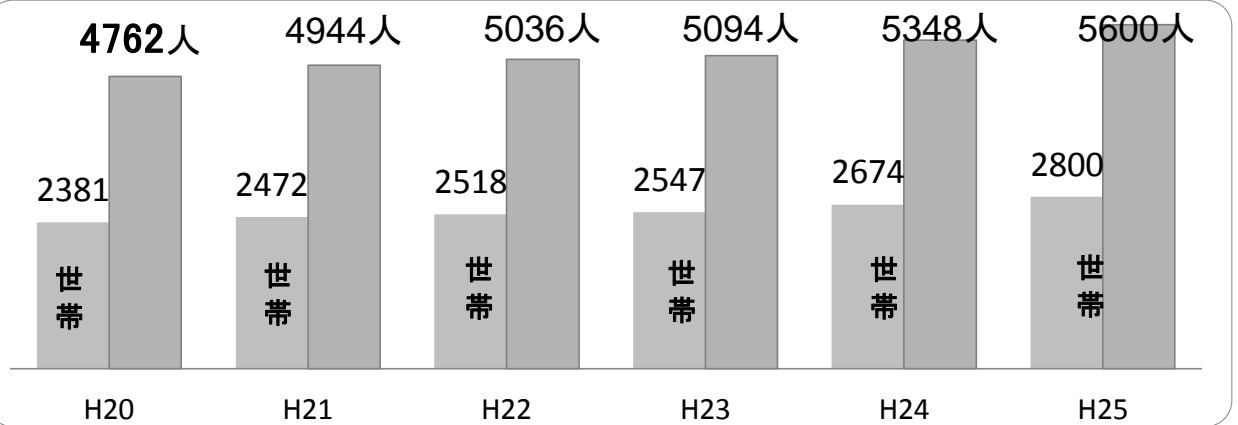
超高齢時代を迎えた加賀市で …家族や親の介護・入院そして最期に… どう対応していくか！

○高齢者のみ世帯の増加（H24年以降は推計値）

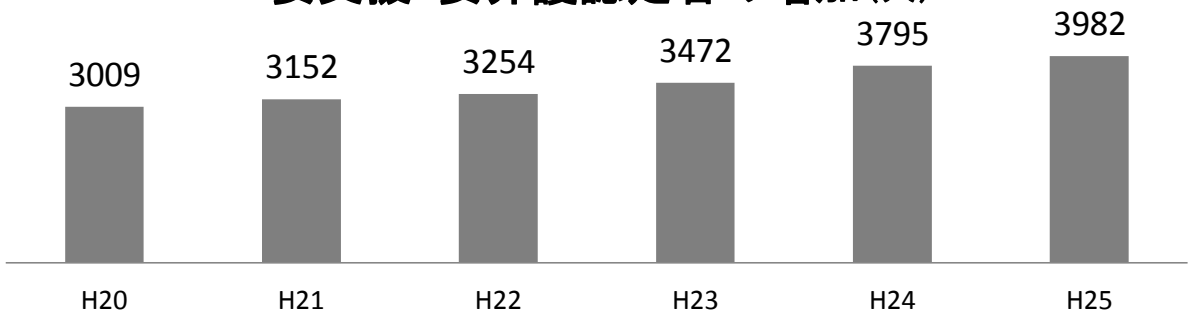
一人暮らし高齢世帯（戸）



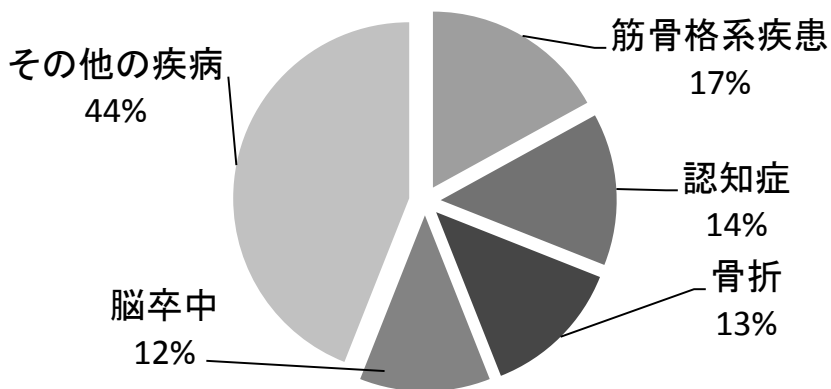
高齢夫婦のみの世帯と人数



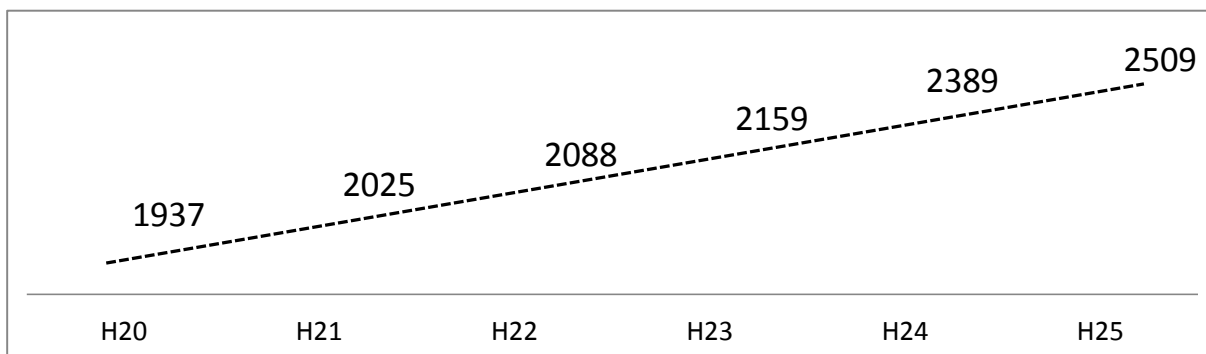
要支援・要介護認定者の増加(人)



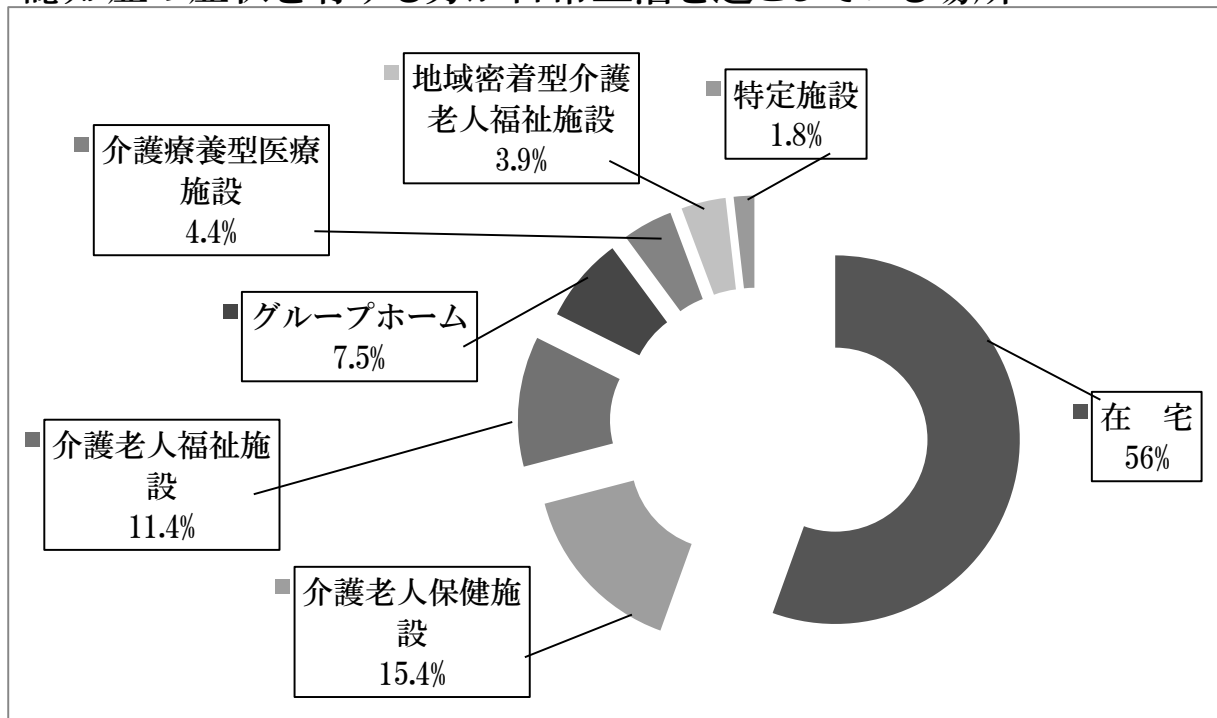
要介護認定申請時の病名



○加賀市の[認知症の症状を有する高齢者]の増加 (人)



認知症の症状を有する方が日常生活を過ごしている場所



…私自身の実体験… 家族の入院・介護そして最期

私は、おばあちゃん子で、小さい時、そして市議になってからも祖母と二人で暮らしていた時期がありました。祖母は、80歳を超えても、いつまでも元気で、「俳句の会」や近所のスーパーにも、一人で出掛けて、楽しんでいま

ところが、ある日、

私の居ない時に入浴した祖母は、風呂場ですべって転倒し、腰を強く打ってしまいました。

…あれほど、外へよく出歩いていたのに…この時から、祖母は、出歩かなくなり、その後、しばらくして認知症の症状が出るようになっていきました。今思えば、家に閉じこもりがちになった事が大きな原因だったと思います。

又、昨年2月、酒とたばこが大好きだった父が、入退院をくりかえした後、71歳で、亡くなりました。

さらに、父の死後、めっきり気力の衰えた母も、今年8月、肺がんでの闘病の末、父の後を追うように、71歳で、亡くなりました。

…私は、短い間に二年連続で、喪主という悲しい事態に追い込まれることになってしまいました。…

これで、高齢の身内は、家内の母だけになりましたが、その母も3年前から、認知症を有するようになっており、主に家内が介護しています。

私は、現在40代ですが、友人の多くも、親や家族が病気で苦しんでいたりと、認知症の介護で大変苦勞している方が何人もいます。

年金だけの高齢者にとって、医療費や生活費などの負担は、家族の手助けがなければ、到底やりくりはできません。

そして、蓄えの無い高齢者がふえています。

さらに、この傾向は、超高齢時代の中で、ますます膨らんでいくでしょう。もう、だれかが犠牲になって、全てを引き受ける時代ではありません。

できるだけ、地域や行政が、支援や苦勞を「分かち合う」とりくみが必要

昔のように、兄弟親戚が、近くにたくさんいる時代ならば、十分身内で「支え合

い」や、「分かち合い」も、できたのでしょうか・・・。

現在の加賀市には、身内が、都会へ行ってしまったきりの高齢夫婦のみの世帯や、一人暮らしの高齢者が多く、また、資産がほとんど無い、アパート暮らしの高齢者も、増えています。

又、加賀市では、年1回健康診断すら受けない方が多く、そのため、病気の早期発見・早期治療ができていない方もいらっしゃいます。

これが、加賀市の現実です。ならば、それを真正面から見据え、十分対応出来るようなしくみが必要です。

⇒ では、進行する超高齢社会に対応するため
加賀市はどんな高齢者対策を目指していくのでしょうか？

◎ 加賀市の高齢者施策

団塊の世代が65歳以上となる、2015年を控え、「高齢者が住みなれた地域で支えながら、その人らしく、自立した暮らしを継続できる社会を実現すること」を、最大の目標としています。

その目標を実現するために、以下のとりくみを行います。

- 1、 介護予防とリハビリテーション
- 2、 認知症の症状を有する高齢者への支援
(加賀市民全体で、認知症を正しく理解し、地域ぐるみで認知症の方々の生活を支えていく体制をつくっています。)
- 3、 地域包括ケア体制の構築
- 4、 自立が困難な状態になった(高齢者の)権利擁護
- 5、 地域生活を支える環境整備(防犯・防災)

高齢者の住環境の整備

例： 家庭内での転倒等により要介護状態になることを予防するため、行政として、住宅改修や福祉用具の相談などを行う。

このような「公助」プラス、<まち>の役割「共助」が重要です。

加賀市に「地域助け合い社会」を根付かせていこうではありませんか！

室谷 ひろゆき 議会報告

市役所
住所

加賀市大聖寺南町二41
加賀市山代温泉14の67

72-1111
77-7839

2012年
11月号

(討議資料)